

令和4年

松前町議会

新病院建設に関する調査特別委員会  
(第3回)

会議録

自 令和4年10月21日

至 令和4年10月21日

松前町議会

各 位

会議録の作成にあたっては、誤りのないよう留意しておりますが、時間の関係上原稿校正は初校しかできなく、誤字、脱字等がありますことを深くお詫び申し上げます。

まことに恐れ入りますが、御了承のうえ御判読いただきたくお願い致します。

新病院建設に関する調査特別委員会委員長

西 川 敏 郎

# 新病院建設に関する調査特別委員会 (第3回)

令和4年10月21日(金曜日)

---

## ◎出席委員(11名)

委員長	西川敏郎君	副委員長	飯田幸仁君
委員	疋田清美君	委員	沼山雄平君
委員	宮本理恵子君	委員	福原英夫君
委員	近江武君	委員	工藤松子君
委員	梶谷康介君	委員	斉藤勝君
委員	堺繁光君		

---

## ◎欠席委員(0名)

## ◎職務のため出席した議員

議長 伊藤幸司君

---

## ◎出席説明員

町長	石山英雄君	副町長	若佐智弘君
病院事務局長	白川義則君	病院事務局次長	斉藤広文君

---

## ◎職務のため議場に出席した事務局職員

議会事務局長	鍋島孝明君	議会事務局次長	佐藤巧君
議会事務局主任	三上大輔君		

(開会 午前10時58分)

○西川委員長 おはようございます。

ただ今から、新病院建設に関する調査特別委員会を開会致します。

本日の委員会は第3回であります。直ちに会議を開きます。

はじめに、審査方法についてをお諮り致します。

本日は、前回の会議の議論を踏まえ、正副委員長において提出させた資料が配付されておりますので、これらの資料の説明を受け、質疑を行いたいとおもいますが、これにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

○西川委員長 ご異議なしと認め、そのように進めたいと思います。

直ちに会議を開きます。

提出されている資料について、説明を求めます。

資料の表紙により、目次に沿ってお願いします。

新病院建設候補地の検討について、説明をお願い致します。病院事務局長。

○白川局長 それでは、私の方から説明させていただきます。

まず、大変申し訳ないんですけども、最初の表題のページの新病院建設に関する検討委員会という表示をさせていただいたんですけども、正式には新病院建設に関する調査特別委員会という表題になりますので、大変申し訳ありませんけど、そういうふうな訂正をさせていただきたいと思います。申し訳ありませんでした。

それでは、順次説明、新病院建設候補地の検討について、ご説明させていただきます。まず、1ページ目をお開き願いたいと思います。候補地の概要という形で図面を載せております。まず候補地A、大磯地区になりますけども、候補地Aにつきましては、現病院西側で、現在駐車場として利用されている土地で、候補地B、これは建石地区になりますけれども、建石地区の国道228号線沿いの町有地となっております。

それから、2ページ目、こちら図面をつけさせていただいております。候補地A、こちらは先ほど申し上げたとおり大磯、現病院の横の駐車場となっております。東西約97メートル、南北約56メートルの土地で、用地の北側と南側で4メートルほどの高低差がございますということです。

次に、3ページ目をお開き願います。こちら図面の方、ちょっと小さくてみづらいかもわかりませんが、参考につけさせていただいております。候補地B、建石の概要となっております。東西320メートルから360メートル、南北約200メートルから270メートルの土地で、用地の国道側の平地と海側の平地の間に若干の傾斜地がありますことになっております。

引き続き、今度は4ページ目をお開き願いたいと思います。候補地の比較をした表をつけさせていただいております。上から順番にいきたいと思います。まず始めに位置、位置の関係です。候補地Aは、大磯222番地他5筆、候補地Bについては、建石60番地1他9筆となっております。

次に、敷地面積になります。候補地Aは、約5千200平米、候補地Bは、約8万3千平米となっております。

次に現状です。候補地Aは、現病院の患者及び職員駐車場、候補地Bは町有地となっております。

次に、建設条件等になります。候補地Aは、用地の北側と南側に約4メートルの高低差があり、整地及び擁壁等の施工が必要であること。医師公宅及び院内保育所の建設が、新

病院建設後から1年から2年以内に必要とすること。町道に隣接する土地の買収が必要であると考えております。一方、候補地Bは、土地の利用計画が必要であること。医師公宅、看護師宿舎及び院内保育所の建設を新病院建設と同時に行う必要があるということになります。

次に、津波、土砂災害についてです。候補地Aは、浸水域、これは津波避難対象区域になりますけれども、浸水域外となっていますが、海拔20メートル以下で隣接する国道、町道等が一部浸水区域となっているところです。また、候補地西側に土砂災害警戒区域もあることから、災害発生時には病院のアクセスが困難となる恐れがあります。候補地Bは、浸水域外で、海拔20メートル以上、隣接する国道は浸水区域外となっており、近隣にも土砂災害警戒区域はございません。

次に、敷地利用計画についてです。候補地Aは、近隣に一般住宅等があり、建設できる延べ床面積が最大5千400平米程度と制限がございます。院内ヒアリングの状況や敷地の形状から、必要面積や動線の確保及び災害時のトリアージや診療スペース等の確保が困難であり、建設面積が500から700平米ほど不足しております。これは、敷地が長方形であるため、必要面積を各セクションの配置や動線を考慮した配置に限界があるためです。また、診察に必要な面積を確保するため、3階にボイラー等の機械設備室を設置する見込みとなっておりますが、機器の入れ替え等、メンテナンスに費用がかかる見込みです。候補地Bは、敷地面積が広く、計画の自由度は高いと思われます。敷地内に傾斜地が若干ありますが、傾斜地を利用した建設も可能じゃないかと考えております。敷地面積が広いため、新病院の形状、機能について、必要な診療スペース等の確保、配置が可能となると考えております。また、ドクターヘリのヘリポートへのアクセスも容易となっております。

次に、確保可能な駐車スペースについてですが、新病院の駐車場を患者用80台、職員用100台の計180台分を予定しております。候補地Aは、現駐車場に新病院を建設することとなるため、代替駐車場の確保が必要となります。現病院正面の駐車場24台分は、現病院解体駐車場整備までは利用可能です。候補地Bは、新病院建設に合わせた駐車場整備が可能となると思われます。

次に、アクセス道路についてですが、候補地Aは、一般外来等については、町道博多建石線となりますが、民有地の用地買収が一部必要となります。救急については、町道大磯保育所通り線となります。候補地Bは、国道228号線となっております。

最後に、その他懸念事項として、候補地Aは、周辺に民家や公営住宅があるため、入院患者のプライバシー保護のため、防護柵の設置等の対策が必要となります。候補地Bについては、日本海を望める環境にあるものの、風が強く、冬期間吹雪くことがあること。塩害等の対策のため、送迎バス等の車庫の建設が必要なこと。新病院への入院患者等の移動に経費がかかることが挙げられております。

次に、5ページをお開き願いたいと思います。建設候補地の院内検討結果についてでございます。院内で建設候補地の比較で示した両候補地のメリット・デメリットを比較検討を行い、診療スペースや必要な部屋の確保、災害発生時のトリアージ及び安全なアクセス道路の確保等を踏まえ、新病院の建設には、候補地A大磯地区よりも広い用地が必要であるとの結論に至っております。このため、令和4年11月頃に策定予定の新病院建設に係る基本計画(案)並びに令和5年度に予定していた基本設計の策定を1年延期したいと考えております。

延期する理由としては、総務省のヒアリングについて、基本設計実施の前年度11月末までに総務省に報告しなければならず、現状では事業費等の算出が難しいこと、現在建築

資材が高騰していること、患者の利便性及び医療スタッフが働きやすい環境整備を図るため、新病院の各セクション等の配置について、検討を重ねる必要があること。以上のことから、基本計画の策定等を1年間延期したいというふうに考えております。以上が、新病院建設候補地の検討についての説明となります。よろしくご審議賜りますよう、お願い申し上げます。

○西川委員長 説明が終わりましたので、これより質疑を行いたいと思いますが、質疑ございませんか。

齊藤委員。

○齊藤委員 最終ページかな、病院、ドクターも医療技術者も、全ての職員が入って検討した結果、大磯で建てようとしてきたけれども、どうもここでは面積が足りない、いい病院をつくらうとすれば足りないんだと、こういう病院の中での結論に達したということで受け止めていいのかどうか。

○西川委員長 病院事務局長。

○白川局長 ただ今齊藤委員さんからのご質問にお答えしたいと思います。ただ今委員がおっしゃったとおり、病院内で今のような説明をして、様々な意見はあったところですけども、最終的にはヒアリングをした結果、例えば部屋がちょっと足りないとか、スペースが狭いとかっていう判断の下に、それが全て全て叶うわけではないんですけども、そういうことを考慮すると、今の大磯だとやっぱりちょっと面積も足りない、なおかつ今コロナ等のそういう対策も当然しないと駄目だろうし、そういう動線も含めた対応もしないと駄目だろうし、災害時の対応も当然しないと駄目だろうねってことになる、やはりちょっと大磯では厳しいよねっていうお話での結論でした。以上です。

○西川委員長 齊藤委員。

○齊藤委員 これは副町長にお尋ねしますけれども、前にもお話しましたが、役場の管理職の皆さんでつくる院内会議、庁内で会議があるというふうに承っておりますけれども、その会議では、やはり大磯は狭いだろうなっていうような結論に達しているのかどうか、あるいはまだそこまでは話をしていないということなのかどうか、教えてください。

○西川委員長 副町長。

○若佐副町長 私の方から答弁させていただきます。庁舎内の検討委員会につきましては、病院から出た案について、それぞれ委員から意見を集めて、それで結論っていうか、方向性を定めるという立場にあるものでございます。そして、まずこの庁舎内の委員会の方でも、やはり患者さん、そこで働く人達、町民、全てがこれは建てて良かったと思われるような、そういうものをやっぱり目指して行くべきだという方針の下に今までも議論しておりますが、今回、病院の院内の方で1年延ばすべきだと、あすこの土地ではやはり狭すぎるといふ結論に達したのであれば、庁舎内の方は、それを当然重く受け止めて、今町長の方にもそういう院内の結論であれば、私どもも大磯での検討は中止したいということで、病院側から、院内から出る案について検討する立場ということで認識しております。以上です。

○西川委員長 齊藤委員。

○齊藤委員 もう1点、事務局長に聞きますけれども、今まで大磯で建てようということでコンサルにもかけていろいろやってきたと。その結果、この前ちょっとした図面みたいなものが出てきたんですが、私驚いたのは、1階に便所もないという、更にはX線の施設もないというような状態のものでしたよね。

ですから、あすこに土台建てるというのが無理があったんでないのかなという、私も常

々そう思っておりました。ですから、院内では、あすこでは狭いので、違うところに建てるべきでないかという結論に達したというふうに受け止めていいですね。

○西川委員長 病院事務局長。

○病院事務局長 ただ今齊藤委員さんからもおっしゃられたとおり、病院としては、何回も言いますが、大磯だと先ほど言いましたとおり狭いというような結論に達しておりますので、今までも大磯ありきでずっと進んできてるところはあったんですけども、その時とはまたいろいろ時代背景も、今のコロナの関係とかもなかった時代なので、その時はある程度あすこに収まるようなものは、一度議会の皆様にも検討していただいたこともあったんですけども、現状、先ほど言ったとおり、建ててから後悔するようなものは、ある程度事業費も、かなり膨らむ事業費なので、そういうのも考慮して働く先生、看護師、それから患者さん、外来に来る患者さん、入院される患者さんに不便のかけないような、そういう病院をつくっていきたいというのが本心でございますので、よろしくお願ひします。

○西川委員長 他にございませんか。

福原委員。

○福原委員 歯切れのいいのか悪いのか、答弁がスキッとしないわけですが、今の齊藤委員の質問については、それはいろいろ考え方ございますね。ただ、私まず最初に確認をしたいなと思ってました。確認したいなっていうのは、先ほども説明ありましたが、事業を1年先送りするという事は、これはよろしいですね。

それと、次にこの当初の計画は100人病床で大磯でやりましょうと、建設しましょうという考え方です。今回は60床での考え方でございます、40床も少ないんです。そして、当初の計画A案の時に土地、その他でかかった経費っていうのはどれぐらいかかったんでしょう。二つ目ですね。

三つ目、B案を提案した経過経緯。この資料を見ますとA案は魅力ないよ、B案の方が魅力あるよっていう文章表現です。そうすると、前の時の、当初の計画の時はA案は魅力なかったのかなっていうふうに捉えたもんですから、その経過経緯をもう一回、三つ目。

それと、確認で四つ目、このA案で事業費を見たら、高低差があるのにないように書いてますので、それと、あすこは地盤が弱いのでね、掘削であり、地盤調査であり、擁壁であり、その他の経費っていうのは、この間も途中で終わりましたけども教えてもらいたいなど。

それと、この間も質問しましたが、このBを実施するにあたって、病院の関連事業者への対応、補償を考えなくてもいいのか。もし、B案に移すとすればね、事業を。この間しなくてもいいような答弁があったもんですからね、確認行為でまず、この五つを答弁願ひします。

○西川委員長 病院事務局長。

○白川局長 ただ今、福原委員からご質問のあった件についてお答えしたいと思います。5点ほどあったと思いますが、まず1点目、事業を1年先送りする考えということですが、その考え方については先ほど来も言っておりますけれども、変わりがないというふうに考えております。

それから、当初計画のA案に土地購入等にかかった経費の話だと思うんですけども、こちらについては、今日手持ちの資料がちょっとなくて、実際、当初大磯地区の場合ですね、15、6年前からそういう計画があったのは事実であって、そのために財務事務所から一定程度の用地を安価で購入したという経緯は、私も記憶あるんですけども、じゃあ、

その経費はいくらかかったかっていうのは、ちょっと調べ切れてないので、記憶だけではしゃべれませんので、ご了承願いたいと思います。

B案の提案の経緯経過ってということなんですけれども、基本構想の方では、もう承認いただいているところなんですけれども、そちらの方は大磯でいくよっていう形で基本構想の方はつくったわけでございますけれども、それを踏まえて、役場の方、先ほど副町長が委員長の役場の方の検討委員会が並行でやってるわけでございますけれども、その中で建石地区に町有地があるので、そういうのもちょっと考えてみたらどうですかっていうご提案があったということで、それでいろいろと協議をしてきたところであります。その辺はまた、先ほども言いましたけども大磯地区だと狭いとか、そういういろいろなデメリットがあるので、これは一つ協議してもいいよねっていう話で建石地区の方は協議させていただいております。

それから施設整備、これ大磯地区の関係でよろしいんでしょうかね、福原委員、B案の方ですか。

○福原委員 もし、建石でやるとしたら、基盤整備だとかいろいろあるもので、大磯の方はいいです、大磯の方はもう中に含まれてますよね。

○白川局長 建石地区の関係については、まだ具体的に、結構先ほども説明したんですが広い用地なんです、広い用地でありまして、実際病院をどこに建てるのかとかっていう具体的な話はまだ進んでおりませんので、そこら辺をまず、例えば病院をここら辺に建てるのか、この辺に建てるのかっていうことがまだ決まってない状況なので、まずは具体的にどういう工事が必要だ、ああいう工事が必要だっていうことは、まだお示しできない今状況でありますので、ご理解していただきたいと思います。

それから、最後の病院関連事業者っていうのは、どこまでのことを言ってるのか、ちょっと私もわからないんですけども、この前の話だと、薬局だとかの話になるんでしょうかね。そこら辺は、具体的には町として、病院として、そういう補償するってことはないということでご了承願います。それは、当然企業の方の努力になるのではないかというふうに考えております。以上です。

○西川委員長 福原委員。

○福原委員 まず1点目はわかりました。A案のかかった経費が今ちょっと調べてないっていうのであれば、今度教えてください。

それで、無駄にならないかということなんです、あすこの空き地。せっかく投資して、100床病院で計画して、ずっと進めてきて、急にB案が出てきて、だからB案の方にスルッとスライドさせて今考えてる。しかし、準備もそんなにできてないなあと思ったりして、ちょっと不安に思いました。

それと、今、最後の五つ目、補償を考えてないっていうんですけど、この歴まちをやる時でも随分、俗に賃貸で入っていた方々と、それに付随してすごく問題があつて、なかなか進まなかったことがあったもんですから、十分にこのことは検討してください。確認行為、今のところ考えていないっていうのであればいいですけど、ただ、重要な問題になるかもしれないよということだけね。

それで次に、財源、今の確認行為はそれでいいです。財源、1回目の時に総事業費が33億9千600万537円でした。先日出た時には、A案では50億1千374万9千、B案では53億315万。それで、6月27日にやった時と10月27日、A案も16億ほどボリュームが跳ね上がってるんです。計画をしていくとボリュームが跳ね上がっていきますよね、さっき局長が言ったように原材料が高騰してるんですから、もっと上がりま



すよ。

それで、今、この間、次長がこの財源は起債と一般財源と補助金だよと3本言いましたけども、これ単純計算して総事業費に対して起債が91%起債です、91%、残りは一般財源。そうすると町民に、僕は影響を及ぼすんでないかなと、町民と言うより町の事業、暮らし、それと色々な産業への投資、影響受けるぐらいのボリュームでないかなと思うんですけども、ちょっとそこらを。

それと、この償還年度、いつから、そして毎年度いくら償還するのか。なぜかしたら、先ほど言った住民の生活に町の活性化で、町を良くするための投資に使う額、今73億ぐらいですか、起債の残高が、もっとありますかね。そんなことで、ちょっと心配してるもんですから、そこのところお願いします。

○西川委員長 副町長。

○若佐副町長 まず、1問目の方、私の方から説明させていただきます。従前ありました100床の病院の計画ですけれど、あれは、日本調剤薬局ある側の町道、あすこの民有地を全て買い取る。そして、今の現在の病院、そして新築する予定場所の間にある、山の方に伸びて行く道路、町道、これを潰すと、廃道するという、あすこの場所で面積を広げるというもとの計画で挙がってきたものでございます。その他に、今現在、先ほどから申しておりますとおり、災害時のトリアージとかいろいろなものが、またコロナ対策とか出てきて、あすこの用地ではやはり、現状の用地では狭いという意見が多々あったわけで。

先ほど来、福原委員の方からB案が出たからあすこが駄目になったのではなくて、あそここのところが狭いという意見が多かったのもっと広い町有地はないかということでの建石地区もあるよというお話であって、決してA案の、当初予定してたところよりもこっちの方がいいからってという単純な話じゃなくて、面積的に広いところはあちらがあるという話であって、そういう意味合いで出てきた場所でございますので、ただ、先ほどから最初から、何か私どもの方で建石、建石って言うように聞こえるんですけど、そうではなくて、今の大磯の予定地が狭いという意見の下に、それであればもっと広いところが必要だよねということでの違う用地のお話をさせていただきましたので、ご理解いただきたいと思っております。

○西川委員長 病院事務局次長。

○斉藤次長 福原委員から質問がありました、財源確保と年償還額の関係だったんですけども、今予定している病院事業債、病院事業債の方は20年償還の予定となっております。一般会計で借りていただく過疎債については、12年償還になる予定であります。病院事業債につきましては、建石案の方で2回の資料の金額で説明しますと、大体元金償還で1億2千万程度、1億から1億2千万程度になる見込みであります。一般会計については、大体倍、2億弱くらいにはなるのかなとは考えております。

ただ、今の段階で過疎債、病院事業債とも交付税措置がある形になりますので、財源負担は全て一般財源という形にはならないかと考えております。

また、一応中にも記載してあったんですけども、補助金関係ですね、補助金関係も今病床数の減少の関係で予定してる国庫補助金の方、記載させていただいてるんですけども、今後、先ほど局長の方からも説明あったとおり、全体的な建設計画、平米数だとか確定して、導入方法だとか検討した段階で導入できる補助金だとかがあれば、それも利用して活用していきたいとは考えております。以上です。

○西川委員長 福原委員。

○福原委員 副町長の答弁していただいたことは、理解できますよ。でも、理解できます

けども、当初100床の病院が今度60床に縮小になっての計画でございますんでね、やはりちょっと僕では納得できないです、わかりません。ただ、皆さん方がいろいろ判断なさるかなと思います。

それと、今の次長のお話してくれた、一応大体3億2千万、単純計算でね。ただ、これ交付税で70%ぐらいですか、もう少しダウンしますか、交付税で充当されるのは。そんなもん、ちょっと答弁して。

○西川委員長 病院事務局次長。

○斉藤次長 今の福原委員から質問あった部分だったんですけども、現状で過疎債については、元利償還の7割、病院事業債は25%ぐらいだったと記憶しております。

ただ、交付税措置につきましても、平米数によってちょっと交付税の措置の額がちょっと変わってくるものですから、先ほども説明しましたとおり、なるべく建設にあたっては、建設コストを削減するような形で、なるべく一般財源を少ない形で交付税措置に近い形で賄えるような形での財政運営ですね、建設計画を立てて行きたいと考えております。

ただ、先ほど福原委員おっしゃったとおり、資材の高騰とかもありますので、それも考慮しながら今後検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

○西川委員長 福原委員。

○福原委員 よくわかります、大変だと思う。そして、交付税でこういうふうに対応されても、一般財源がどうしても町の税、その他いろんなもの交付税合わせてどうしても支払っていかねばならないから、やはり随分締め付けがくるなあと思いました。ありがとうございます。

それで、うちの人口が8月31日の広報で6千296人、平成3年度の人口減少率がマイナス258人、前年度とほぼ変わりません。そうすると、今1年遅れて6年後とすると、1千500、単純計算ですよ、1千598人のマイナス、そして、町の人口は4千698人、5千人きります。そんなことを考えて行くと、大変だなあと思ったもんですからね。やはり町の人口減少と、町の財政との規模、それと入院患者、通院していただく患者さんの規模に合わせた施設整備が望ましいなあと思ったもんですからね、それで財源を聞きました。そんなことで了解してください。それを、やはりきちっとしていかないと厳しいなあと。

それで、次の聞きたかったのが、10年間黒字を維持してたわけですけども、再度黒字化することは大変だと思います、はっきり言って、これからもね。しかし、黒字化をいいんだよというふうにして事業を進めては、赤字化がいいよっていうことで事業を進めちゃいけないと思うんですよ。いかに極力赤字の幅をダウンさせるかって視点で病院建てなきゃならない。

一番先に言うの忘れまして、病院を建設することは私反対でないですからね、言うておきますけど。何も町民はもう老朽化して駄目なんですから、建てることは賛成ですよ、それだけはまず言うておきますね。

だから、その黒字化にするためにどういう病院が必要なのかとか、人口減少に合わせて、僕は10年後の人口減少に合わせて設備をした方がいいんでないか、10年後っていうの4千人きります、確実にきります。そうすると、それに合わせた病院建設でないかなと思ったんです。

それで、理想的には、副町長も事務局長も言われるように、広くていろんな意味で利便性のあるところがいいと思うけれども、それで本当いいのかなあとずっと考えてました。こちらのいいのは、Bもいいのわかるし、Aもやはり今までの投資を考えたらいい、それ

いろいろな意味でね、さっき補償しないって言うんだから。そんなことを考えたら、やはり10年後の人口規模と財政規模に合わせて病院をつくれないうのかなあと。まず、この1点だけどうでしょうか。

○西川委員長 副町長。

○若佐副町長 私の方から答弁させていただきます。福原委員の正しくおっしゃるとおりでございます。現在の利用状況に合わせてつくるべきなのか。ですから、以前にもお話したことございますが、最低40年、多分建ててから長寿命化とかいろいろ手立てをして50年とか使っていくような病院をつくるわけでございます。そういった中であっての人口減少、これは否めない部分もございます。では、それが10年後の患者数の見込み、人口見込みでいくのか、20年後のものでいくのか、この辺は十分皆さんとも議論しながら。そして、ですから、空いた、もし建物の中の空間があるのであれば、それを違う方法で活用することも念頭に置きながら考えていかなきゃならないとは思っております。

ただ、やはり今、国の方でもやはり、病院とか公的な施設なり、そういうものを建てる時に災害部分というものを常に考慮していくことによって、有利な補助なり、起債なりを準備しております。ですから、やはりそのところは利用者等の利便性、働く人の動線もしっかり確保したものでいった方が、建物を建てる場合には有利な起債なり補助金も出てくるということで、その辺は十分精査しながら検討していきたいと思っております。

先ほど、50億台のお話もありましたが、これはRC、鉄筋コンクリートでのつくりを元に計算している金額でございます。ですから、場所によってはこれが鉄骨づくりでも可能なものがあるんじゃないかと。そうなってくると、春の段階で鉄筋コンクリート、RCづくりですと平米あたり53万と言われているものが、鉄骨づくりですと、物価上昇ありますけど、春の段階で27、8万、平米あたり、半分まではいかないですけど、およそ半分近くまで建築費が違いがあると。今、現状上がってますんで、現状はどのくらいになってるか。やはり、そういうものも十分検討しながら、RCでつくるべき部分はRCでつくっていいですし、鉄骨づくりでいけるところは鉄骨づくりでいくとか、やはりそういうものもやはり庁舎内の検討委員会では、やはり専門家の意見も聞きながらやっていきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○西川委員長 福原委員。

○福原委員 来年まで1年間延ばすと、半年猶予あるのかですけども、その中でやはり十分な協議をしていった方がいいかなあと。それで、今副町長言われたようにね、いろんな方法論が生まれてきます、いかに圧縮するか、いかにここはいいのか、ここはいいのかっていうことでアイデアが出てきますんでね。それを避けて通れないと思うんですよ、松前町が。そのところで、それで今うちの町の財調は14億ぐらいでしょうけども、繰り替え運用してて、今4億より残ってませんが、実際はあるようでない。そうすると、何かあった時に大変だなと思ったもんですからね、やはり財源に見合う、身の丈に見合った整備っていうのは、心掛けなければならないかなと。それで事業、今副町長が言われたように事業費が圧縮、これはもう一回検討してもらいたいです。

それと、最後に僕は事務局長と話しても、やはり建設内容の内容をもっと協議したいんです。何を協議したいかという、診療の内容がこれでいいのか、もう少しこういうふうにしたらいいのか。それと、病床数が本当60床でいいのかと、この10年を想定してても。それと住民の命を守るために、今の設備で大丈夫なのかと。電子カルテを今準備してやるっていう、いろいろな意味で、AIでも何でも地方の病院として必要なものをどう整備するかのような話し合いをしたかったわけさ、こっちにつくる、こっちにつくるだとかで。

そうして、先生方が一番働きやすい環境、そうして先生方が活用できる設備を私は、整えるのが私達の議員の役割かなあと思ってるもんですからね。そののところが次回でもね、ゆっくり話し合いをさしてもらえれば。今日はね、答弁いいですから、いろんな意味でちょっと課題投げかけましたんでね、そののところで次回資料もらえればね、すごく勉強になりますんでね。最後に、今の答弁で、局長何かあれば。

○西川委員長 病院事務局長。

○白川局長 ただ今福原委員さんがおっしゃったとおり、それは必要なことであって、協議は当然していくべきだと私も思っております。

ただ、診療内容だとか、その辺、医療機器のことをおっしゃってたと思うんですけども、それは実際に使う医師、看護師の意見を基本的に尊重していかないと駄目なので、こっちの方で勝手に用意することはできないので、そこは院内の方できっちりと議論をして決めていきたいと思えます。

前段で出ました、確かに人口減少ははっきり見えてることであって、なので60床、なぜ60床なのかっていうお話を先ほどされてたと思うんですけども、当然人口減少に伴いまして、医療環境も今大変厳しくて、医師の確保もちょっと思うようにいかないとか、看護師の確保だとか様々な問題がたくさんありまして、大変厳しいってことをまず理解していただきたいってことですね。

60床っていうのは、現在60床で、許可病床は93床ありますけども、東の方はちょっと今お休みにしてるところがあって、その中で今一病棟60床で運営してるわけですけども、その中で、何とか地域包括ケア病床を4月から12床入れたり、そういうことをしながら何とか収益確保に努めてるんですけども。60床にした経緯っていうのは、以前の議会でも説明したと思うんですけども、まず医師の関係、それから看護師の関係等々ありまして、やむを得ずそういう60床ってことの運用に今してるので。例えば医師が7人でも8人でもいれば、じゃあ100床できるのかっていう、そういう単純なものでなくて、いろいろなことがあって今現在60床でやってるってことを理解していただきたいと思えます。

なので、黒字を前みたく出すってことは今の時代って言ったら失礼ですけども、大変自治体病院的には、いろいろと全体的にはコロナ病床持ってる病院あるんですけど、この辺でいくと木古内とか道立江差ですとか、コロナになった方を入院させている病院が何箇所かあるんですけども、そういう病院は新聞等々でも出てますけれども、1ベッドあたり何十万っていうか補助されてて、そういうのもあって全体的には病院事業としては黒字のところが多いっていうことは、北海道の方からも示されているんですけども。我々の病院はそういうことを、入院患者は入れてないので、検査はしますけども、入院対応できる病室もないのでってことで、ずっとお断りしてきたところもあって、そういうのも結構経営的なものに響いてるってば響いてるんですけども、これは院長の方針、固い方針なので、コロナ患者は絶対受けないっていう方針なので、それに従って今もやってるような状況なので、ベッド数の関係も、ゆくゆくは、例えば60床でスタートして、どっかの段階で40床なり50床になってっていう話は当然出てくるとは思います。

地域包括も今12ベッドですけども、もっと増やしてもいいとか、また違う療養型のベッドにするとか、介護治療にするとか、様々な選択肢があるので、そういうのもきちっと協議をしながら、先の人口減少に備えて検討をしていきたいと今思っておりますので、よろしくお願ひします。

○西川委員長 福原委員。

○福原委員 私は一番懸念するのは、この特別委員会で十分な議論をして、そして医師が確保はすごく苦しんだ時代がありました。そういうことのないように、そして先ほど言ったように先生方が気持ちよく働ける病院であって、看護師さん方が働ける、そのためにもっと、時間がありますので議論を深めて、そして最終的にトップ理事がね、理事長が判断をしていただけるように、私はお願いしたいんです。また次回はね、会議があると思いますが、その時にまた別な角度から質問させていただきます。

○西川委員長 他にございませんか。

梶谷委員。

○梶谷委員 病院の老朽化に伴って、改築が叫ばれてから、喫緊の課題と言われてから10年経ちます。ようやくここまできたなあっていう感じで、私は現在この病院の課題に取り組んでおります。ですから、できるならば、できるならばね、この計画が早い時期に完成される形でこの委員会も進めて行きたいなあと、私思っています。そのためには、一番最初に決めなければいけないのは、建てる場所ですよ。この場所に関しては、A案、B案、いろいろな経緯を経て今日、しかもB案という、今まで考えていなかった建石地区の話が出てきた。その背景を考えますとね、やはり病院で働く人達の一番いい環境づくりをもしつくとするならば、やはりあれだけのスペースがなければいけないという、関係者各位の判断だとすればね、私は早くこの場所を決定して、そしてA案、B案の比較の話は別にしてさ、決まった場所で、その中で課題があるならば、その議論を進めて行った方がね、この委員会はいいい形で進むんじゃないかと。

特に望むのは、町民もそうだと思います、本当に待っていましたよ、今まで。町長もここまで決断される経緯を考えますと、町政全般を考えながら病院の改築に向けての決断をされたと思いますんで、だったらできるだけ早く、これ進めたいという考え方からね、私は一番最初に場所の選定してしまいませんか、委員長。そしてね、その結果、前段で言いましたようにB案で建石、これ例えばね、B案に決まったら、それに従って問題、課題を議論していくっていう形にした方がね、私は効率のいい委員会になるんでないのかなと思いますんで。

まだ言いたいこといっぱいありますけどね、やっぱりそっからスタートしないとね、これはもう何回も何回も同じことの繰り返しで、先へ進まないよ。せっかく立てたこの行程だってね、スケジュールだって、今言ったように結果的には1年延期せざるを得ないっていう状況まで発生してるでしょう。これは繰り返してたらまた、どういう形になるか心配ですからね、早く進めるために、方法としてやっぱり場所決めようよ、委員長。場所を決めるために何が必要かって議論はいろいろあるでしょうけど、そうしたものを整理して、そっからスタートすべきじゃないかなと。

早くつくりたいんだ、町民待ってるんだよ、ね。そのためにも効率のいい委員会にして、この計画が早く完成されるような形を考えましょうよ。委員長、お諮り願います。

○西川委員長 ただ今、梶谷委員の方から提案がありましたけども、B案であればB案で検討していったらどうかっていう話も出ました。そして、また院内検討委員会の結果についても、建石地区の方が、B案の方がいいという結論に至っておりますので、本当に我々もこの委員会をだらだら進めて行くわけにもいかないので、候補地が決まらなければ基本計画の作成に進むことはできませんので、前に進めるためにもこの会議で建設候補地の了解、ご理解をしていただきたいなというふうには考えております。いかがでしょうか。

斉藤委員。

○斉藤委員 私は、B案でいくのはいいような気がしますがけれども、実は、この場所、冬

の間の風を考えてみたことありますか、皆さん。先が見えなくなるほど吹雪くんですよ、何日も。ですから私はこちら側、つまり海側じゃなくて、山側に土地を求めるべきだと、こういう主張をしたいと思うんです。そういう土地はまだあります。買収すれば済むわけですから、その辺も十分病院側では考えながらやっただけなければならない。

例えば、道路に面した玄関にします。病院では自動ドアですよ、原則的には玄関はですね、もう雪で閉まるも開きもしなくなると。こういう実態がありますよね。だから、私は浜側じゃなくて山側に土地を求めるべきでないのかと。ここまで来て、相当な予算がかかるんですから、多少の買収の経費がかかってもいいんじゃないですか。まだ土地は広がりますよ、山側に。これも含めて建石、もっと広いところに行くということであれば、賛成です。

○西川委員長 福原委員。

○福原委員 齊藤委員がC案を提案なさいましたけども、A、B、Cを決めるというのは当然です。しかし、またC案が出されると、みんながいろんな意味でどうしたらいいのかっていう考えがまとまりませんのでね、もう一回ね、次回、早めに会議を開いて、本音でもう一回やったらどうですか、するにしても。

今の齊藤さんが心配したように、僕も暴風、雪、暴風雪、これのすごさっていったら並みでないですね。前のように防風林があるわけでないんだから。だから、そんなことも含めて、わかってて皆さんが協議してるんだから、もう一回だけ協議して、それで結論出しませんか。そして、委員長、そこのところで、僕も土地を早く決めなければならないと思うもんですからね、そこでもう一回協議して採決とりませんか。ちょっと気持ちの余裕を持たせていただければいいなあと思いました。

○西川委員長 暫時休憩致します。

---

(休憩 午前11時55分)

(再開 午前11時57分)

---

○西川委員長 再開します。

それではね、議論はいろいろありますけれども、今、福原委員の方から、齊藤委員の方からもありましたけど、この第3の山側の広い土地の方もあるんじゃないかなって意見もありますので、次回までにそういったものを整理して出したいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

昼食のため、休憩致します。

再開は1時からにします。

---

(休憩 午前11時57分)

(再開 午後0時58分)

---

○西川委員長 再開致します。

工藤委員。

○工藤委員 もう煮詰まったところで、ボツと手を挙げましてすみません。今回の候補地比較、4ページのところを見て、何かB案がいいっていう立場で書いているように思ったんです。ただ、用地が広い方がいいんだっていうことはよくわかりますし、ところが、ここに冬の環境に対しての対策が全く載ってない。それから、B案の方には傾斜地っちゃう

部分ですが、病院を建てる場所の強靱化について、8月に出された方の事業費っちゅうんですか、その中に全く、まるで土地に関係しては費用がかかかないような表になってましたんで、傾斜地に対する強靱化っちゅうんですか、そういうものを入れた、次の資料に対する要望なんですけども、そういう部分も含めて次の資料出していただきたいなと思っております。

それから、感染症は今のコロナだけで終わるんじゃないで、あと何年かすると、また全然変わったものが出てくると思うんです、世界的ないろんな人間の営みを考える時に。ですから、感染症対策に対しての病院の設備、広さ、そういうものが絶対必要ですし、先生方の言ってるA案は狭いんで、B案の方で、広くきちんとしたものをつちゅうのはよくわかります。ですから、病院は絶対必要なんで、それに対する反対はないんですけども、予算をきちんと考える時に、そういう部分も含めて、資料として出していただきたいと思っております。

○西川委員長 事務局次長。

○斉藤次長 今工藤委員の方から指摘ありました件についてなんですけども、まずですね、候補地の部分の土地の関係です。B案につきましては傾斜地あるんですけども、傾斜地を含んだ形での平地をメインとして考えることも、建設的には可能だったもんですから、今の段階では傾斜地についての、例えば擁壁だとかは見込んでない形だったんですけども、建設方法によっては必要になってくることもあるんですけども、傾斜地をかわした形での建設も可能になるものですから、前回計上させていただいた事業費の方には算定はしておりませんでした。

もう1点、感染症対策の関係だったんですけども、今回の新病院建設にあたりましては、きちんとコロナ対策と言うか感染症対策も含めた形での設計を考えておりますので、ご理解いただければと思います。以上です。

○西川委員長 他にございませんか。

沼山委員。

○沼山委員 1点だけちょっと確認さしてください。前回、各部門のヒアリング結果ということで公表されました。今回、院内の検討の結果について様々な部分から、とりあえずは建石地区が望ましいというような結論に至ったということなんですけども、前回のヒアリングで相当量の職員が狭い空間で、しかも病院の根幹に関わるような病院の事業そのものが、非常にやりづらい環境だったと記憶してます。その中でもサーバー室の設置がないとか、それから1階に職員トイレがないとか、それから、職員の食堂がないとかですね、様々な部分がですね、あるわけですよ。これを全部見ると、局長はね、全部全部取り入れることは不可能だと言ってますけども、ただ、働く環境とすれば、相当悪しき環境だなというふうに思っているんですね。これが建石、とりあえずは建石地区に決めようという場合に、これはどの程度働きやすい環境がね、改善されるのか、ちょっと教えていただきたいと思っております。

○西川委員長 病院事務局長。

○白川局長 ただ今沼山委員さんのご質問にお答えしたいと思います。前回資料として出した院内ヒアリングの結果に基づいての話ですけれども、基本的な業者さん、業者さんのこと言うとちょっとあれなんですけども、当初挙がってきた平面図がですね、ものすごく簡素な図面って言ったら変ですけど、結構トイレがもれてたり、それこそサーバー室がなかったり、様々な不備な点が多々あった中でのヒアリングの実施だったので、そういうのもちょっと若干影響していることは影響してるんですけども、いずれに致しましても働きや

すい環境、トイレだとか職員の休憩室だとか食堂だとか、様々なものが、これはなくてはならないものだとか基本的に考えておりますので。

ただ、職員の更衣室にしても、それぞれの部署につくってしまうともうすごいことになってしまうので、そういうのはちょっと考えながら、1箇所にしてもらう、1箇所にできるものは1箇所にまとめてもらおうとか。トイレ関係はもう最低限なくてはならないものなので、職員用と患者用は、当然それぞれの階なり部署なりにないと駄目だとは思っているので、そういうことも踏まえて、また新しい候補地が決まりましたら、きちっとその辺も協議、院内で協議をしていきたいなというふうに考えております。

○西川委員長 沼山委員。

○沼山委員 というのは、今の段階で言えることは、候補地のBが望ましい、立地条件も望ましい、当然こうした中で働く環境も入ってくるんだと思います。相当量改善されるものと期待していますけども、ただ、今の働く環境次第で人が集まったり、集まらなかったり。松前の場合は慢性的に看護師不足っていうことあるので、せめて、働きやすい環境をつくる、そして、そのうえで立地条件のいい部分をね、決めていただければなというふうに思っています。

ですから、今回この建石地区っていう、一応候補地として挙がってきましたけれども、これらにすることによって相当量近付いているなというふうな印象持ったんだけど、ちょっと今のだともやもやとした答弁なので、もうちょこっと切れ味の良いお答え、ちょっとお願いします。

○西川委員長 病院事務局長。

○白川局長 どこまで切れ味があるかわからないですけども、基本的にはある程度広い土地のところに建てることになると、今言った様々な各部署からの要望が、きちっと対応できるものと私は考えております。

当然新しい病院になりますと、今例えば看護師が足りなくて、いろいろな手段で募集をしますけれども、4年後、5年後には新しい病院になりますよねっていうのが、一つの募集の、ある意味ではきっかけにもなるものだと思いますので、そういうことも利用、利用して言ったら変ですけども、出しながら看護師なり医師なりの確保に頑張っていきたいと思っております。

○西川委員長 近江委員。

○近江委員 私は、建石地区のB地区に建てるのは、基本的に賛成です。そして、やっぱり病院内でもって検討されているいろいろな意見が出てきてね、こういう広い場所がいいなという感じで出てきたもんですから、そういう面につきましてはいいんですけども、ただ、先ほど斉藤委員が言いましたようにね、暴風雨の関係につきましてはね、これだけ広い土地ですから、設計する段階でね、風、雪を避けれるような設計図なり、玄関のとり方なり、いくらでも対応あると思うんですよね。ですから、そういう面でね、もう一度設計図をつくる段階でね、見せていただければいいなあというふうに思います。

今のB地区の候補地で、私は賛成です。

○西川委員長 ありがとうございます。他にございませんか。

堺委員。

○堺委員 私もですね、Bの方がいいかなっていうことは、これだけの広い敷地です。建物を建てた場合はですね、その環境に応じた角度なりなんなり、設計段階でいろいろできる問題があるのかなと思っております。ですので、内部の中の設定とか、そういうのは病院の方々のそういう希望に添ったものでつくっていただければいいんですけど、全体的に



これだけ大きな敷地であれば、角度、風の向きがこうだからってということでもって角度はいくらでも変えることはできると思うんですよ、その環境に応じた建築、立地条件にあった建物が計画できると思うんで、私は、やっぱりこの今のB案でいいかなと思ってます。

○西川委員長 他にございませんか。

齊藤委員。

○齊藤委員 設計する人は、あの暴風雨、暴風、吹雪、経験してない人が設計するんですよ、そうなるんですよ。今は設計で何とでもなると、私はならないと思うんです。あすこの場所に病院を建てる、玄関を道路際につけるということになれば、私は、図面は、広さがあればいくらでも図面は書くと思うんですよ。だから、私は山側にやるべきだと。一定の買収費はかかるとしても、今50億以上の病院を建てようとしてるんですよ。その中に2千や3千万の土地代払ったってやむを得ないじゃないですか。将来に禍根を残さないよう、路線バスが病院の玄関まで入れるように、そういう工夫をした病院をつくらなければならない。

今、沼山議員が言うように、人が集まる病院にしなくちゃいけないと思うんですよ。ですから、私が言う山側の土地も所有者や面積も全部調べて、それも設計の図面がおけるような広さであるということを確認しながら、ぜひ山側に病院を置くということも必ず頭に入れておいてください。

○西川委員長 副町長。

○若佐副町長 皆さんから貴重なご意見、たくさんありがとうございます。先ほど来から皆さんにもご理解いただいたように、現状、当初予定した大磯の土地ではちょっと狭いというようなところの意見がございますので、候補地Bとして、一つの例としては出していますが、そういう働いている人、利用する人、町民みんなが納得するような、齊藤委員のおっしゃるように人が集まるような、そういうものを建てるためにはどの程度の土地が必要なのか。院内でもどの程度の大きさのものが必要なのか、はっきりとその辺のところをしっかりと協議して、意見をまとめて、それに見合った土地はどの辺にあるのかということもいろいろと協議しながら、この基本計画をですね、町長のもとでいろいろと進めてまいりたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

多分いろんな意見があろうかと思いますが、最終的にはそこの最大公約数になるのか、どうなるのか、他にも本当にいい土地がないのか、しっかりと検討しながら、また皆さんの方にも考え方を報告、町長の方から報告さしていただきますので、ご理解いただきたいと思えます。

○西川委員長 他にございませんか。

福原委員。

○福原委員 こういうことの審議をしてたら大変だよ、冗談でなく。A案あって、B案あって、今度C案あって、ポツと言われて、はい、検討しますよなんて言われたら、今まで何の審議してきたんですか。

やはり、将来と想定をしながらいいことはいい、しかし、負担が、松前町財源が弱いんだから、人口減るんだからっていう視点を持たないで、まあ、BでもCでもいいですよ、僕に言わせれば、もつの、松前町。

だから、そんな意味では、さっき提案しましたが、次回の時にいろんな資料をね、今まで話された、質問された内容のことをまとめて出していただければ、協議の叩き台になりますねというふうにして終わったような感じしたんだけど、みんな今度あつという間にいろんな意見が出てきたもんですから。ちょっと、そこのところ、委員長、調整してくだ

さい。

○西川委員長 副町長。

○若佐副町長 福原委員の全くおっしゃるとおりでございまして、私がただ今申し上げたのは、土地の場面の話でございまして、土地が見つかった時に、見つかったって言うか、土地がある程度ここでいいんじゃないかっていうことでまとまった時に、当然そこにどのようなものを建てるかは、先ほど言ったように将来的なもの、人口減少も踏まえながら、いろいろな観点から、財政的な負担、そういうものを含めてこの基本計画を構築していきたいと思っておりますので、全てが兼ね合いがありますので、そういうことでご理解いただきたいと思えます。

○西川委員長 よろしいですか。

他にございせんか。梶谷委員。

○梶谷委員 確認をしたいんですけどもね、そうすると改めてこの現在示されてるA、Bの他にまた一つ出てくるってことになるんですか。どうなんですか、今の流れ聞いてますと、今のA案、B案の他に更にC案が出てくるっていう話になるんでしょうかね。その辺だけは確認しておきたいと思えます。

○西川委員長 副町長。

○若佐副町長 その辺のところも、それに相応しい場所があるのかどうなのか、私どもも調査してみないと何とも言えないところがございまして。ただ、この特別委員会の中で場所を決定するとかではなくて、ここはやはり町長が決めなきゃならないところでございまして。ただ、町長の基本計画つくるうえでは、皆様のご意見、当然町民の意見でございまして、議員の皆さんの意見でございまして。これをきちっと吸い上げるような形で、そういう基本計画を構築していきたいと思っておりますので、今の段階で他のものを出すかどうかは、はっきりとしたことは回答できませんので、いろいろ調査はしてみたいと思っております。以上です。

○西川委員長 福原委員。

○福原委員 副町長もこうどうしても揺れ動いてるようだから、そうではなく、うちらが十分に議論しましょうと先ほど言ったんですよ。そうして、委員長を中心にね、そうしてそれでよし、いくべやとなった時、町長にこういうふうな形で、町長お願いしますよ、そうすつと自分達いいですよと、全員が賛成してくれる、そういう体制。そのために次の時に提案された斉藤さんの意見もあるし、いろんな方の意見もあるだろうから、それを調整をして資料まとめてくれればいいんですよ。そうすると、ああ、わかりましたと。

それと、B案はプラスアルファ10億かかるよとか、A案であればこのものにプラスかかる、土地買うのはこうだよといろんなが出てくるから、C案を出さなくてもいいのであれば出さないように調整すればいいし、出すのであれば出すように準備すればいいだろうし、何も難しいことでないんだって。そこのところをふらふらすると、僕ら委員も、管理者もみんな戸惑ってしまう。そこのところで理解して、委員長、調整してください。

○西川委員長 他にありませんか。

(「なし」という声あり)

○西川委員長 特にないようですので、質疑はこれで終わりたいと思えます。

様々な議論がございました。何せ、建設候補地が決まらなければ基本計画の作成することができませんので、前に進めるためにも、次回において今回の議論を十分踏まえて、町側から今回の皆さんから出た意見を十分加味した資料を提出していただいて、次の委員会を開催したいと思えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

○西川委員長 それでは、特に異論がないようですので、そういうふうにして次回の委員会の進め方についてを進めたいと思います。

資料要求等につきましては、今回の議論でありましたことを町側の方から加味してもらって提出させていただきたいと思います。

そういうことでよろしいでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

○西川委員長 それでは、ご異議なしと認め、そのように決定致します。

今日のいろんな意見を踏まえましてなんですけども、委員長から、一つ提案がございます。所管事務視察調査についてであります。今回の委員会の議論を踏まえまして、基本計画の策定には、もう少し時間がかかるものと思われまして。このため、このお時間を活用しまして、可能であるならば、最近建設した自治体病院を実際に見てみまして、参考にすることも、またこれも必要ではないかと思っております。

病院建設には多額の費用を要しますが、今後長期にわたって町民が使い続けていく重要な施設でもありますから、このため、費用や経営面はもちろんですが、感染症への対応、利便性、今後の維持管理やその他施設整備の状況等、他方面から調査していくことも必要ではないかと思っております。このため、これらの調査や課題等を把握するためには、実際皆さんに見てもらった方が良いのではないかと思っております。直近の建設で、道内ということであれば、日高管内の平取町国保病院が行っております。

ただし、現状新型コロナウイルスの感染状況もございまして、もし、受け入れ可能であるならばという前提になりますが、平取町国保病院を視察調査することにしたと思いますが、これにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

○西川委員長 ご異議なしと認め、視察調査したいと思います。

日程については、正副委員長において一任させていただきたいと思います。

なお、視察先については、先方の都合により変更もありませんが、ご承諾いただければ日高管内平取町に決定し、その場合、第4回定例会に発議案を提案したいと思います。これにご異議ございませんでしょうか。

ご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○西川委員長 ご異議なしと認め、そのようにしたいと思います。

お諮り致します。

本日の委員会は、これをもって閉会したいと思います。これにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

○西川委員長 ご異議なしと認めます。

なお、次回の委員会の開催日につきましては、正副委員長にご一任願いたいと思います。よって、本日の委員会は、これをもって閉会致します。

どうもご苦勞様でした。

(閉会 午後 1時22分)